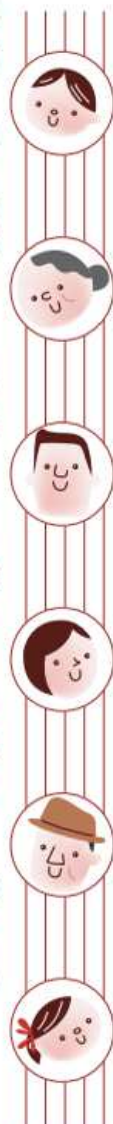


特集

少子化をきえてみませんか？



熊本県でも少子化が進んでいます！

●子どもの数が年々減少

県内の1人の女性が一生の間に生む子どもの平均数(合計特殊出生率)は、人口を維持する水準である2.08を大きく下回ったまま年々下がり続け、平成16年には過去最低の1.47となりました。生まれてくる子どもの数も約1万6千人と、昭和30年の4割にも満たない状況です。

●少子化の原因はさまざま

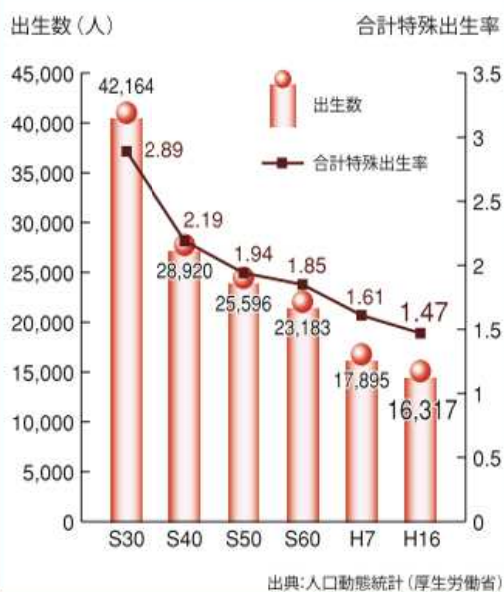
少子化の原因としては価値観の変化や未婚化、晩婚化が進んでいることなどが考えられます。子育てに対する負担感もその原因の1つです。

子育てを負担に思う理由

- ① 子育てにお金がかかる
- ② 育児の心理的・肉体的負担が大きい
- ③ 家庭と仕事の両立が困難

H16年熊本県次世代育成基礎調査

熊本県の出生数と合計特殊出生率の推移



少子化が進むと社会はどうなるの？

2030年の熊本県の姿は？

2000年の熊本県が100人の集落だったら



少子化が進むと、子どもや若者が減り、県の将来やわたしたち一人一人の生活にも大きな影響が出てきます。



●経済は？

ものづくりの担い手など働き手が少なくなり、産業構造や経済成長への影響が心配されます。

●暮らしや社会は？
年金や医療費などを世代間で支え合う仕組みが崩れる恐れがあります。地域の伝統や文化などを継承することが難しくなります。



●子どもたちは？

年齢の違う子ども同士で遊ぶ機会が減り、社会性がはぐくまれにくくなるなど、子どもの育ちへの影響が心配されます。

少子化は今後も進むと予測されています。このまま少子化が進むと地域社会の活力の低下や子どもたちの健やかな育ちなどさまざまな面で大きな影響が出てきます。
少子化の流れを変え子どもを安心して生み育てることができ子どもたちが健やかに育つことができるようにするためわたしたちは何をすればいいのかを一緒に考えましょう。

どうすればいいの？

子育て支援サービスの充実や、家庭と仕事の両立ができる環境づくりなどに、地域や社会全体で取り組んでいくことが必要です。

県では、今年3月に「熊本県次世代育成支援行動計画～くまもと子育て・子育て応援大作戦」を策定し、「地域ぐるみで支え合う、子ども・子育てにやさしくまもと」の実現に向け、3つの重点プロジェクトを中心にさまざまな取り組みを進めています。